

この冬、数年に一度と言われるレベルの大寒波が次々と襲来しましたが、季節は確実に進み、柔らかな優しい雨が大地を潤わせ、海からの風に、春の息吹が感じられるようになりました。本日ここに、御来賓の皆様、御臨席と、保護者の皆様、御列席を賜り、令和六年度愛媛県立松山北高等学校中島分校卒業証書授与式が挙行できますことは、大きな喜びです。学校を代表致しまして、厚く御礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました十五名の皆さん、御卒業おめでとうございませす。皆さんが中島分校で過ごした時間はどうでしたか？

昨年の四月に松山北高校に赴任しましたから、皆さんとは1年間の関わりということになります。生徒会誌みつばちに書かせてもらいましたが、皆さんは覚悟を持って、この中島分校にやってきたと思います。最初は不安でいっぱいだったことでしょう。少人数の学校を選んだとしても、やはり自分とは違うタイプのクラスメートがいるだろうし、自分とは気が合わないのではないかと思われるタイプもいたでしょう。さらに、好きなタイプの先生もいれば、嫌いな先生もいたはずです。しかし、今日は来て卒業する皆さんは、その中で学校生活を送り、辛くしんどいことを乗り越え、今ここにいます。よくぞ様々な困難を乗り越えてきました。学校とは、大規模であろうが、小規模であろうが、社会の縮図で、学びの場であり、成長する場所です。困ったとき、苦しいとき、考えて、試行錯誤して、時にはつまづき、助けてもらいながら、最後は自分で乗り越えていく場所、それが学校です。「若いころの苦勞は買ってでもしなさい。」と先人たちはよく言ったものです。卒業生の皆さんの中で、自分は順風満帆だったという人は一人もいないはずです。よくぞ多くの高い壁を乗り越えました。多分、それは友と出会い、恩師と出会い、家族のありがたさを感じられたから、できたことだと思いません。

もう一つ、「笑う門には福来たる。」という言葉彙を、皆さんに送りたいと思います。私は、本当の悲しみや苦しみを知って、初めて、笑いの価値が高まると思っています。笑いの本質は、いつもヘラヘラしていたり、だれかを笑いものにする

とかでは決してありません。人の痛みや苦しみ、悲しみを知って、そして、心の底から日々笑える人になつてください。そうすれば、必ず福がやってきます。

保護者の皆様、中島分校にお子様たちをよくぞ来させてくださいました。人生を支えてくれるのは、友であり、恩師であり、家族です。やはり、最初は、離島の学校に通わせることに、抵抗を覚えた方もいらっしゃるかもしれません。でも、良かったでしょ？私は北高に赴任して1年目ですが、この中島分校に来るたびに、分校生の生き生きとした姿を見て感動して泣いています。文化祭の挨拶で泣いたときには、自分自身に驚きました。それだけ、ここには“愛”があるんです。そして、その“愛”が見えやすいし、感じやすいのです。人間、最も大切なものは、やはり“愛”なのです。わかりやすく言うと“相手を思う”ということです。そうすれば、それがいつか必ず自分に帰ってきます。それを強く感じられる場所が中島分校だと思います。

本日、お子様たちは、分校の先生方の手から離れます。とても寂しいけれど、心からお祝い申し上げます。

みつばちに書かせてもらいましたが、皆さんは慣れ親しんだ愛着のある瀬戸内海から大海原へと出航します。新しいステージへと向かいますが、もう高校入学前の皆さんとは違います。見事にバージョンアップした皆さんが今ここにいます。ピンチが来ても大丈夫です。ここで出会った友がいて、恩師がいて、中島の方々がいて、家族がいます。それこそが皆さんが獲得した財産です。

あらためまして、ご卒業、おめでとうございます。母校愛媛県立松山北高等学校中島分校をいつまでも忘れないうで。皆さんの前途がさらに輝かしいものになることを祈って、式辞といたします。

令和七年三月一日

愛媛県立松山北高等学校長

井上 浩